



→5月ともなると川面が輝いて、舟のシルエットが美しくなる。光のなかに行く矢切の渡し。

↑光を浴びて美しくなるのは舟だけではない。岸边にはえる木々の葉も美しさを増す。紅葉もきれいだが、この時期の木の葉もきれいだ。

久しぶりにクマの話を書く。

クマは、甲斐犬とコーギーのミックス。つまり、犬種は雑種。今年、三歳になるメス犬だ。

甲斐犬のご主人と、コーギーのご主人が散歩の途中に出会った。ともに犬好き。挨拶だけにしておけばよかったものを、つい話が犬の話題になった。

犬だって人並み。挨拶をする。犬の挨拶はご存じと思うが、たがいの尻にまわって匂いを嗅ぐ。

運悪く、それは人からみればの話、犬の側からいうと運よくか、甲斐犬はオスでコーギーはメスだった。

しかも、そのときコーギーは排卵日だった。もちろん、そんなことは飼い主は知らない。

甲斐犬は乗った。ふつうだった。犬だって好みがあるだろうから、いやなら尻を振るか、尻尾を両足のあいだに巻き込むようにして拒絶する。

たぶん、コーギーも犬種がちがうわけだから尻尾で隠そうとしたにちがいない。ところが悲しいかな、コーギーには自慢の尻尾はない。

もともとないのか、生後すぐ落とさ

## 今週のクマ

→いつもは愛想を振りまくクマも、鳶職風の人を見ると、たちまち身を隠し、上目遣いに見つめるだけで、出てこようとはしない。雷や花火のように大きな音も大嫌いだ。



どういうわけだか、矢切には柑橘類が多い。どの家にも植えてあるが、だれも食べない。色を愛でるだけなのだろうか。

れたのか、それは知らない。ご主人のところへ来たときには、すでになかった。つながってしまった。あわてたのは犬好きのご主人同士。あわてて引き離しにかかった。

犬の交尾は長い、といわれる。子どもころ、田舎で育った私は、つながった犬同士を引き離すとき、大人たちが水をぶっかけているのを覚えている。

もつとも、あのころの犬は、いまのようにつながれていなかった。だから引きはがすのに水をかけたのだろう。水入りだッ！ といったかどうか、そこまでは記憶にない。

ともかく、甲斐犬とコーギーは、ほんの一分たらずで引きはがされた。

それから二か月ほどして、二月の雨の降る夜、コーギーは子犬を生んだ。四匹のうち、最初の二匹は無事で、あとの二匹は死産だった。コーギーにも甲斐犬にも似ない、ただのかわいい子犬だった。

三か月後、矢切の渡しにもらわれてきた。胸に白い模様があり、黒くてかわいかった。クマみたいだからと名前はクマとつけられた。人は大好きだが、ニツカボツカをはいた鳶職のような人を見るとおびえる。なぜか、理由はわからない。